

感想文です。

企業大学訪問 順天堂大学教授 天野篤先生

私はまだ明確ではありませんが、医者を目指しています。その動機としては、何度も医者に助けられてきたからです。私はたった 1542g の未熟児で生まれ、1 歳の時にも川崎病という心臓の病気にかかり、その度に医者の方から命を救っていただきました。また、父が内科医であることも大きな要因だと思っています。

そこで、医者になるために必要なことや、今、私たちがすべきことを普段聞けない外科医の視点から話していただきたいと思い、心臓外科の権威である天野先生への訪問を考えました。また、天野先生の著書を読み、大きな信念を持ち、常に患者の心に寄り添う医者の方だと感じ、ぜひ、お話を聞きたいと思っていました。

はじめにアポイントを取らせていただいたときは、いきなりの電話に緊張もしましたが、アポイントを取ったり、知らない東京の街を地図を見ながら行動したりと言う経験も今回の活動で学んだ、今後の人生に生かせるスキルなのだと思います。

実際にお会いしてみて、先生は優しさの中にとっても強い情熱をお持ちの「篤い」方だと感じました。先生へのインタビューの中で、たくさんのお話を伺うことができました。先生のお話は大きく三つに分けることができると感じます。

まず一つ目は、医者としての「心構え」についてです。先生は、「医者になるうえで大切なことは何か」という質問に対して三つの事を挙げられました。「自分は医者に向いているんだと考えること」、「何かに気が付いたら絶対に見逃さないこと」、「やるべきことはすぐにやること」です。先生曰く、医者はどれだけ毎日頑張って患者さんを診ても、人生において救うことができる人数は日本の人口の 1 パーセントにも満たない程度です。ですから、いかに効率よく仕事をし、一人でも多くの人を救うかが重要になってきます。そのためには、早く自分のむいている分野を見つけ、そこを伸ばす必要があります。適材適所ということです。また、外科医は手術中に気が付いたことがあったら、放っておくと患者の死にもつながる危険な事態になることがあります。ですから、気が付いたら見逃さず、処置すべきと思ったら後回しにせず、すぐにやるのが絶対に必要なのです。わたしは、普段の宿題や、自主学習を後回しにしてしまうことがあります。そして、すぐに自分はダメだとあきらめてしまいがちです。この天野先生のお話は、自戒として常に心にとめておこうと思います。

また、将来医者を目指すのであれば、普段から少しでも他人への思いやりや弱者への配慮を持ってほしい。とおっしゃいました。医者は病気やけがをした人々を救う仕事です。思いやりのない医者は絶対に成功しないでしょう。さらに、「弱者を救えるのは強者だけなのだから、医者は常に強者でなくてはならない。」との話も頂きました。これからの人生において、できる限り強者でいられるように体調や健康に気を使っていきたいです。

そして、先生が常に大切にしている、「病を癒すは小医、人を癒すは中医、国を癒すは大医」という言葉があります。先生曰く、ただ病気を治療するだけではだめで、治療の際に患者さんの望むような方法で、患者さんの目的を達成させてこそ意味があるのです。たとえば、宗教上の理由から手術での輸血を拒む患者さんがいたとします。「それだったら手術できない」とあきらめてしまったり、無理に輸血を受けさせようとしたりする医者

もいるかもしれません。しかし、そこで患者さんの意思を尊重しなければそれは小医です。天野先生は、誰もが注意以上にはなるべきだとおっしゃっていました。では、国を癒す大医とは何なのか。上記のように、一人の医者が人生を通して救える人々はごくわずかです。ですが、世界中の人々を救う方法が一つだけあります。それは、医学的新発見をすることです。たとえば、結核に対する抗体物質であるストレプトマイシンの発見により結核による死亡者数は激減したし、もしも今後、日本人の死因第一位であるガンのより効果的な治療法が発見されれば、平均寿命が著しく伸びることでしょう。そのような大発見をしたものが大医なのです。先生はすべての医者へのゴールはそこにあるとおっしゃいました。先生自身も弟子の物も含めると、約二百もの論文を書いていたらしいそうです。臨床医として世界に名を轟かせた天野先生から研究がゴールという話をお聞きして私は驚きましたが、先生は臨床医としても研究者としても一流なのだと感じました。

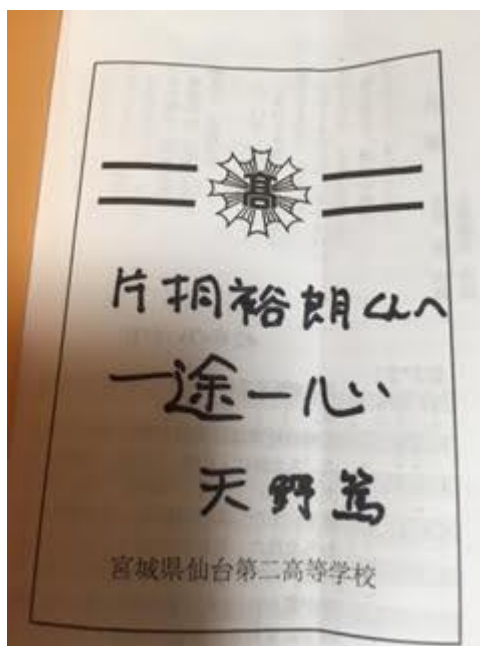
次に二つ目は、「精神力」についてです。先生は、年間何百件もの手術を執刀しています。手術という、患者さんの命にかかわるような状況で、どのようにしたらパニックにならず、いつも通りの精神状態でいられるのかお聞きしたところ、「二の矢、三の矢」を持つことが大事だとおっしゃいました。つまり、あらかじめ手術中に起きるであろうトラブルを予測して対処法を考えておく、ということです。これは私がやっていた野球でも同じで、ワンアウトランナー一塁の状況でゴロが来たら二塁に投げるけど、ライナーが来たら一塁に投げる。というように考えておくことでスムーズにプレーができます。このように先を見通しておくことは何にも通ずる大切なことなのだと思います。

また、「天皇陛下の心臓手術では、普段と違う緊張はなかったのか」という質問に対して、「全くなかった」とおっしゃいました。先生曰く、たとえば地面に置いてある平均台をわたれと言われたら、誰でもわたることができ。しかし、その平均台が地上三十メートルにあったら誰もが落ちる恐怖で渡れなくなるでしょう。それと同じように、天皇陛下の手術も一般の患者さんの手術もやることは何も変わりません。ただハードルが高いのです。このお話を聞いて、わたしはとても緊張しやすいのですが、緊張したときは、いつもと同じことをすることを心掛けていこうと思いました。

最後に三つ目は「努力」についてです。天野先生はご存じのとおり、まさに努力の人です。浪人生活を乗り越え、外科医として腕を磨き続けて、日本一の心臓外科医となられたのです。その人生の中で「人の三倍努力する」ことを信条とされています。この言葉はもともと天野先生の患者さんの言葉だそうです。偏差値から二倍離れるというのは相当な落ちこぼれです。その人は人の二倍努力しないとほかの人々に追いつくことができません。しかし、その人が三倍努力すれば、他の人々を追い抜くことができます。つまり、どんな落ちこぼれでも「人の三倍努力」すれば人に認められるのです。私も、いきなり三倍とはいきませんが、自分は努力していると誇れるように今のうちから少しずつ努力を積み重ねていきたいです。

これまで、天野先生のお話を紹介してきましたが、長年の努力と積み重ねてきた経験によって精神力や技術を身につけられたのだと感じました。また、先生の教えには、「気づいたら見逃さない」、「すぐにやる」、「思いやり」、「先を予測する」、「三倍の努力」などのように、日常生活の中で今からでも経験を積むことができるものが多くあると思います。ですから、宿題を後回しにしない、バスで席を譲る、計画的に行動する、のように小さなことから心がけて、努力を積み重ねていきたいです。そして、天野先生のような「篤い」人になりたいです。

このたびは、お忙しい中、時間を取ってくださった天野先生、訪問の計画、準備を進めていただいた先生方、本当にありがとうございました。



天野先生との集合写真とサインを添付しておきます。